

子ども達の基礎学力の低下が叫ばれている昨今、「確かな学力」を身に付けるための個に応じたきめ細かな指導や、主体的な学びを実現する指導方法が今まで以上に求められてきている。

一斉指導と少人数指導・習熟度別指導を組み合わせた効果的な指導方法や工夫について、日本女子大学教授吉崎静夫先生に聞いた。

### なぜ「少人数・習熟度別」なのか

日本の教師は30人〜40人相手の一斉学習の力量は素晴らしく、世界でも指折りだと思っています。しかし、どんなに力量や経験がある教師でも30〜40人相手だと、一人一人に対応するのは無理が生じます。

また、社会科学のような螺旋型教科は問題ありませんが、積み上げ教科の国語・算数・理科（化学・物理分野）に関しては、単元の学習をするのに、「前提」になるものがあります。学力差がつきやすく、学年が上がるごとにその差は大きくなっていきます。そこを授業で補わなくてはならないわけですが、差が大きいために一斉指導では非常にやりにくいといえます。結局、普通レベルの子に合わせるために、ちよつと復習をしたただけで見切り発車をしてしまふ。まさに一斉指導の限界といえます。そこで少人数指導・習熟度別指導

を取り入れる必要が出てくるのです。

### 一斉指導と習熟度別指導

ただ、今の研究では、すべての内容に習熟度別指導が向いているわけではないということが分かってきています。狙う学力や学習内容によって、一斉指導が良い場合と習熟度別が良い場合があります。

「前提」が必要な教科・学習内容（算数なら計算や関数、国語なら漢字、文法や説明文の読解）の場合は習熟度別指導が効果的です。ただし、習熟度別指導の限界は、基礎コース（理解の遅い子のコース）で、色々な考え方をさせることができない点にあります。計算領域はコツコツと結果を出せるのですが、引つ張っていくモデルとなる存在の子がいらないため、思考力・数学的な考え方が伸びません。

思考力や数学的な考え方を身につけ

させるにはいろんな能力の子を混合させた方が良いでしょう。また、国語でいえば説明文や文法、漢字は習熟度別指導が向いています。漢字は習熟度別指導が向いていますが、文学作品や詩を作ったり作文を書かせたりするときは一斉指導が向いていると言えます。

### 柔軟な指導形態

つまり、表1（左上）にあるように、学習内容に応じて一斉指導と習熟度別を組み合わせた柔軟な授業展開が望ましいといえます。いつも習熟度別指導を行うのではなく、一斉指導と組み合わせると効果が上がるのです。「どちらが良いか」ではなく「どちらにウェイトを置くか」ということが大切です。

表2（左中）は習熟度別指導と一斉指導のウェイトの置き方を検討する際に参考にして欲しい図です。横軸には積み上げ教科の学習内容を当てはめてください。国語なら、左から「漢字・

いま

求められる授業形態とは？

どうする？ どうなる？



プロフィール  
 吉崎静夫 (Shizuo Yoshizaki)  
 1950年茨城県生まれ。日本女子大学人間社会学部教授。  
 大阪大学助手、鳴門教育大学助教授を経て現職。学術博士。  
 専門は教育工学で、特に「授業づくり」では、全国の学校現場に足を運び指導に当たっている。著書は『新教育課程で育てる学力と新しい授業づくり』（ぎょうせい）ほか多数。

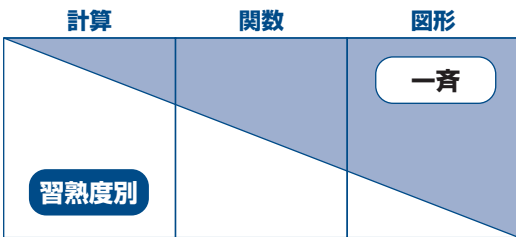


表1 一斉指導と習熟度別指導をミックスさせた単元レベルでの授業モデル

タイプA (単一型)	一斉学習のみ
タイプB (単一型)	習熟度別指導のみ
タイプC (混合型)	一斉学習 → 習熟度別指導
タイプD (混合型)	習熟度別指導 → 一斉学習
タイプE (混合型)	一斉学習 → 習熟度別指導 → 一斉学習
タイプF (混合型)	習熟度別指導 → 一斉学習 → 習熟度別指導

- \* 単元すべての授業をタイプBで行うことがふさわしいのは、子どもの習熟度の差が大きく、単元の目標が「知識・理解」や「技能」に限定されている場合。
- \* タイプCは、「マスタリー・ラーニング（完全習得学習）」とよばれる授業モデル。単元の学習内容を一応指導した段階で小テストを行い、その結果にもとづいて「補充（復習）コース」と「発展（深化）コース」に分かれて習熟度別指導を行う。
- \* タイプDは、単元の前半に「知識・理解」や「技能」といった学習内容を習熟度別指導で行い、単元の後半では「思考・判断（例えば、数学的な考え方）」といった比較的高次の学習内容を一斉学習で行う授業モデル。基礎・基本を全ての子どもに身に付けさせた上で、比較的高次の学習内容を集団思考で学ばせることができる。
- \* タイプE、タイプFは、タイプC・Dを部分的に組み合わせた授業モデル。

表2 新教育課程で育てる学力と教師の指導・支援との関係



\* 積み上げ教科の学習内容を、習熟度別指導が効果的と考えられる順に、左から並べる。算数であれば、「計算」「関数」「図形」の順に並べると、右へいくほど習熟度別から一斉授業へとウェイトがシフトする。この図をもとに、指導形態の効果的な組み合わせ方を考える。

「文法」「説明文」「文学的文章」。算数なら、「計算」「関数」「図形」となります。  
 この図を元に、例えば配当の10時間をどの指導方法で何時間やるかという指導計画を考えると良いかもしれません。「授業をデザインする」という意識と「指導形態を組み合わせる」という発想が大切です。

# 少人数指導・習熟度別指導

「学級担任」から「学年担任」へ意識改革を

「一斉指導が好き」「習熟度別指導が好き」というような自分の授業スタイルに対する信念は捨てましょう。指導方法の好き嫌いとは効果があるかどうかは別です。本当に効果があるかどうか、冷静に見る必要があります。もちろん「習熟度別」がすべてではありません。狙う学力や学習内容によって何が一番適切な指導方法なのか柔軟に考え、学年全体で協力・連携して補充と発展の教材を研究してほしいと思います。

「学級評価」の時代ではなく「学校評価」の時代です。自分のクラスだけよければいいものではありません。子ども達の学力を学年全体で責任を取るといふ考え方が必要です。先生方にも発想の転換が求められているのではないのでしょうか。





# 「習熟度別指導」 ここに悩んでいます

現場の先生方から寄せられた「少人数指導・習熟度別指導」に関する悩みや不安などについて、吉崎先生にお聞きしました。



**少人数指導担当が臨時採用の先生です。  
あまり頼りにできそうにありません…**



少人数指導担当の先生がどのような人か、というのには地域差があります。臨時採用や新規採用の先生が担当になった場合は、一緒に組む先生がある程度の負担を背負って、育てるしかありません。臨時採用や新規採用の先生にとって、習熟度別指導は子どものレベルが揃っている分、一斉授業に比べて指導がしやすい面があります。できるだけ負担の軽いところに回してあげるとよいでしょう。

負担が軽いのは、「基礎」「標準」「発展」で言えば「発展」コースです。ただし、教材準備はチームで協力して時間をかけてください。逆に「基礎」コースにはベテランの先生を置いてください。苦手な子を引き上げることこそが習熟度別授業の大きな目標だからです。



**教材はどのように工夫すればよいのでしょうか？  
プリント中心に実施しているのですが、それでいいのでしょうか？**



自作の教材でもよいのですが、時間がない時は、業者のものを大いに活用すべきでしょう。大切なことは、各コースの違いを明確にすることです。苦手な子にはできるだけ具体的な活動をさせたり具体物を提示したりする等の工夫が必要です。そして基礎コースでもできるだけ数学的な考え方も身につけさせるような課題を与えてください。また、発展教材は、より多く用意しておくことが大切です。用意した教材は学校全体で蓄積しておいて次年度にも生かすようにしてください。教材のストックがあれば、年度始めに年間計画だけを立てておき、事前に範囲と使用教材を確認すればよくなるので、打ち合わせの時間もぐっと短くすることができます。すぐに結果は出ませんが、3年続けると相当の蓄積ができます。



**他のクラスの子が混じってくると、  
その子の実態がよく分かっていない  
ので指導しにくいのですが…**

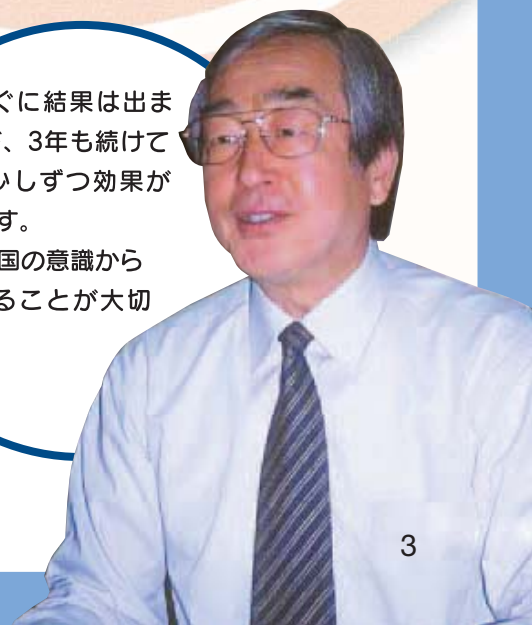


その子の普段の生活や家庭の背景を見ることが出来ないのしかたないのですが、普段から学級をこえた活動を習慣づけておくとよいでしょう。

特別活動や総合的な学習で興味・関心別のグループに分けて授業を行うなどして、普段から子どもを見ていると、習熟度別指導になったときやりやすいです。何度も見れば、少しずつその子の実態がわかってくるものです。

すぐに結果は出ませんが、3年も続けていると少しずつ効果が出てきます。

学級王国の意識から脱却することが大切です。





## 評価はどのようにすればよいですか？



習熟度別指導が取り入れられるようになった背景には、絶対評価になったことも大きな理由として挙げられます。どうしてもクラス担任の指導力の違いで差が出てきてしまうので、「先生の当たり外れ」という問題になります。義務教育では、教育内容は均質であるべきです。そのためクラスをこえた学年全体で責任を取るという意識が必要なのです。そうすればひとりの子を何人もの先生が見て、評価も学年の基準で見ることができ、ひいきがなく正しい評価ができます。複数の教員で、学年の基準に照らし合わせた評価をしてください。



## クラス編成の際、子どもの考えるレベルと教師の考えるレベルの違いが生じることがあります。その時の対応に困るのですが…



子どもとずれるというのは教師の説明が足りないからです。

クラスの選択は子どもと保護者が選ぶことが基本です。

それぞれのコースが、何を使って、どのようなことを学ぶのかを丁寧に子どもと親に説明してください。そして、実態を知る診断テストが必要です。授業の最初から習熟度別にする場合は診断テストをし、一斉から習熟度別になる場合は形成テストを行います。そのテストの結果を判断材料として示し、教師が説明することが必要です。

基礎・標準・発展の3つに分ける場合に、どのコースに行くかは非常に重要です。自分に合ったコースを選べるよう、「どのコースがいい」のではなく、「一人一人ができることが大事なんだ」ということ、そして、内容によって柔軟にコース変更もできることも伝えましょう。



## 基礎コースと発展コースの親から喜ばれます。標準コースをどうするかが課題なのですが…



標準コースは人数が多くなる可能性がある一方で、さらに2つに分けることをお奨めします。また、標準クラスの子には学力に幅があります。中の上なのか中の下なのか見定め、かなりできているなら発展に近づける手立てが必要です。個々にバラバラな場合は少人数でのきめ細かな対応が必要になります。人手が足りない場合は、できるだけボランティア（学習支援ボランティア）を活用して欲しいと思います。退職した教員や異学年の保護者、学生、手の空いている管理職などで対応することも考えられます。



## 保護者へはどのようにして理解を求めればよいですか？



保護者に理解を求めるには、コース分けの段階から関わってもらうこと、子どもの成果を説明すること、公開して授業の様子を見ってもらうこと。この3点が大切です。

特に子どもができるようになったと理解してもらうことが一番効果的だと思います。

基礎コースの子は授業中にどんどん発言するようになるので、それを見ると親も安心するようです。色々な実践校でも保護者の反応はよいようです。



# 川崎市立 東門前小学校

平成14年から3年間、  
学力向上フロンティア校として  
算数を中心とした  
少人数・習熟度別指導の  
研究に取り組んだ、  
東門前小学校の  
取り組みを紹介します。



## 学校DATA

児童数293名  
平成14年度～16年度  
文部科学省指定「学力向上フロンティアスクール」  
算数科における少人数指導・習熟度別指導に取り組む。  
30年来ノーチャイム・ノー放送という子どもの自主性を重んじた校風で、「ひがもん会議」など子どもたちによる自発的な活動を重視している。  
[URL]  
[www.keins.city.kawasaki.jp/2/ke200301/](http://www.keins.city.kawasaki.jp/2/ke200301/)

少人数指導・習熟度別指導について語る  
石橋研究主任（写真右）と小島教頭先生（写真左）

## いざ少人数指導

本校では、児童の主体性を大切にしているのですが、この力を伸ばしながら、算数が苦手な子から得意な子まで一人一人の児童に対応したいと考えました。主体的に行動する姿勢を算数学習に、算数の学習で得た力を主体的に行動する力にという思いが強かったのです。また、「学力向上」少人数指導「習熟度別指導」とは捉えませんでした。

初年度、手探りの状況でいくつかの算数単元で習熟度別指導を取り入れてみました。ところが、計算力だけでなく考え方を育てることも大切なのに、習熟度別にしてしまうと下位のグループではアイディアの出し合いなどが思うように進まず、結果的に教師による詰め込みになってしまいました。そこで、単元の性質や育てたい力によって、また一つの単元内でも場面によって授業形態を変えることにしました。

## TTの効果的な取り組み方

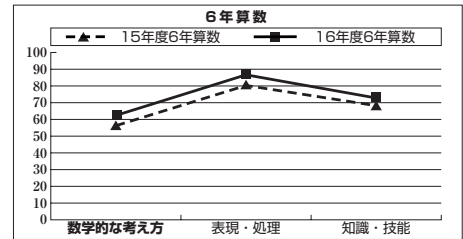
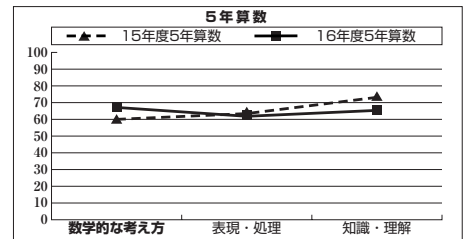
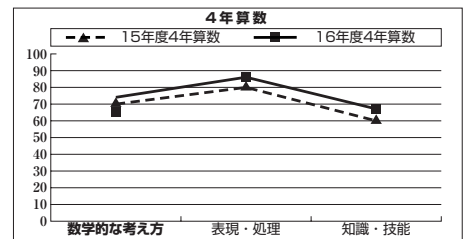
初年度の加配教員は1名でした。人員が一人増えたと捉えて、その人員を4～6年の少人数担当に充てました。2年目からは加配教員が2名になったので、1～3年と4～6年に一人ずつ

少人数担当を配置することができました。

本校ではT1とT2の役割を固定していません。単元ごとに交代しています。というのも、前に立って授業をしているとどうしても子どもの様子が見えませんが、むしろ担任がT2になる方が子どものことが良くわかります。T2で子どもへの反応を見ておいて、次にT1となって授業をすれば、より良い授業ができます。また、役割を交代することでT1とT2の先生がお互いに発問の勉強をすることができま

す。T1とT2の打ち合わせの時間捻出はとも難しい問題です。そこで、休み時間や廊下で会った時など僅かな時間を見つけてはこまめに話し合うことにしました。放課後の会議の数を減らすことも時間捻出のポイントです。そのかわり学年会は週に一回必ず行い、少人数担当にも入ってもらって共通理解を図る必要はあります。また、ちょっとした工夫ですが、職員室の机の配置を、学年の先生と少人数担当の席を近くして、いつでも話せる環境を作っています。いずれにしても、先生同士のコミュニケーションがとても大切です。

## ■算数観点別得点状況■



昨年と比べ、4年生、6年生では、わずかではあるがどの観点も向上が見られる。5年生では、知識・理解が下がっているが、本年度指導に力を入れた数学的な考え方に向上が見られる。

わずかずつではあるが、本校の取り組みの成果がでてきている。

1	クラス分けの方法と基準	教師主導のクラス分けでクレームがあったので、児童の自己評価も取り入れることにした。その上で教師と相談してクラスを決定。クラス分けの基準にしたのは、学習状況別の場合は目に見えてわかりやすい「問題を早く早さ」。高学年になると興味別のクラス分け、課題別クラス分けもある。
2	教材の準備	自作教材やくりかえしドリルを使っているが、圧倒的に発展教材の開発が大変で難しい。おはじきやブロックなど問題を解くために必要な教具は、すぐに使えるようにいつも手元に置かせている。
3	指導案の作成	それぞれの単元で、「伸ばしたい力」「育てたい力」に迫るためにはどういう手立てがベストかという指導案のストックをどんどん増やし、次年度に生かしている。
4	評価の方法	単元終了時には一斉に同一内容のテスト（教科書指導書の問題）を行い「知識・技能」に関しての評価を行う。「思考」に関してはテストやつぶやき発言、ノートへの記述などで行う。担任と少人数担当が話し合い最終的な評価を決定する。
5	保護者への説明	教師主導のクラス分けに関して、初年度1件クレームが来たが、全体的に協力的な保護者が多いので特に大きな反対はない。H15年度からは毎月「算数だより」を作成し、どんな内容をどんな指導方法で進めるのかを報告している。学年末のアンケートでも保護者の満足度は高い。
6	子どもの満足度	学力は伸びているのだが「教科の好き嫌い」調査の結果、算数以外の教科の「好き度」は伸びているのに算数が嫌いになりつつある傾向があった。子どもが楽しいと思う授業と教師が楽しいと思う授業にギャップがある。
7	LD児・ADHD児への対応	それぞれの単元における個性と捉え、通常通りのクラス分けをしている。特別に分けることはしていない。

## 成果と課題



難波校長先生（写真下）

少人数指導によって、子どもも教員も意識が変化してきました。子ども達のノートを見るとその変容がよくわかります。問題の解法や考え方をたくさん書く習慣がついてきていて、今までの4倍くらいノートを使っています。また、教員も教材研究を進める力や子ども達の実態を把握しようとする態度、共通理解を図ろうとする前向きな姿勢が確実に高まっています。今後の課題としては、「子どもが楽しいと思う授業」の研究をしていきたいと思っています。教員としては、課題を工夫して楽しい授業をしているつもりでも、子どもにとってはそうではない場合があるようです。また、授業中ではわかっていたのにテストをするとわかっていなかったという部分もあるので、ドリルなどの教材を活用して反復練習で定着度をより高めたいと思います。

少人数指導・  
習熟度別指導  
実践校レポート  
②

香川県

坂出市立

林田小学校

平成14年から

国語の

習熟度別指導に

取り組む

林田小学校の

取り組みを紹介します。

「どんだんコース」授業風景

「こつこつコース」授業風景（写真上）  
「じっくりコース」授業風景（写真下）



学校DATA

児童数307名  
平成14年度～16年度  
文部科学省指定「学力向上フロンティアスクール」  
国語科と算数科における少人数指導・習熟度別指導に取り組む。（1・2年生はTTによる少人数指導。3年生以上で習熟度別指導を実施。）  
学級王国の意識を排除した学校運営を行っている。  
[URL]  
[www.sakaide.ed.jp/hayashida/](http://www.sakaide.ed.jp/hayashida/)

少人数担当教員の役割

本校への加配教員は2名なので、国語と算数でそれぞれ専科として配置しました。学年の先生2人と少人数専科の先生3人で習熟度別指導を実施しています。学校はあくまで学級担任を主に考えるので、そこにベテランを配置し、少人数担当を経験の浅い人にして育てていこうとする場合が多いと思うのですが、本当に少人数指導・習熟度別指導に力を入れたいなら、ベテラン教員を少人数担当として配置すべきだと思います。そうすることで少人数担当の役割がはっきりしてきます。少人数担当教員が、指導計画や指導内容に関してメインとなって叩き台を作り、学年の先生と相談するような体制を取れば、打ち合わせの時間短縮にもつながります。きちんとしたきめ細かい指導を保障するためには、必要なことではないでしょうか。

国語科の習熟度別指導

国語は習熟度が見えにくいので、習熟度別指導など出来るわけが無いなどと言われたりします。でも日頃の授業で子どもの反応を見たり、テストを見たりすれば、明らかに読み取りが出来



ていない子がいて「差がある」ことは一目瞭然です。現実的に読む力には差があります。だからこそ習熟度に応じた指導したいというのは長年の教師の夢なのではないかと思いい、3年間取り組んできました。我が校の評価規準に照らし合わせながら基礎・基本を洗い出した結果、論理性が求められる「説明文の読み取り」と「話すこと・書くこと」といった表現領域に限って習熟度別指導で取り組むことにしました。

単元によっても異なりますが、国語の表現領域で使用するワークシートは、各コースとも同じ物を使って支援の方法を変えています。

標準コースは、レベルは教科書レベルですが、授業内容は一斉指導の時とは異なっています。標準コースの子は、一斉指導の時とは発展コースの子に乗っかって授業を受ける傾向があります。やや等質になったことで、頼りになる子がいなくなるので、発言する役割が回ってくるようになり意識が変わってきます。

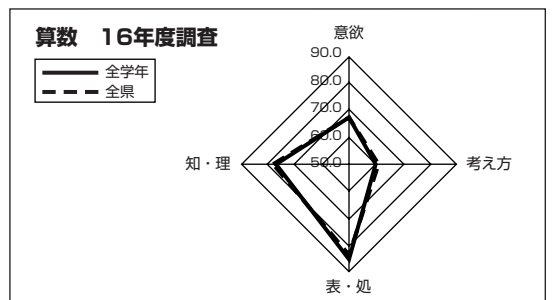
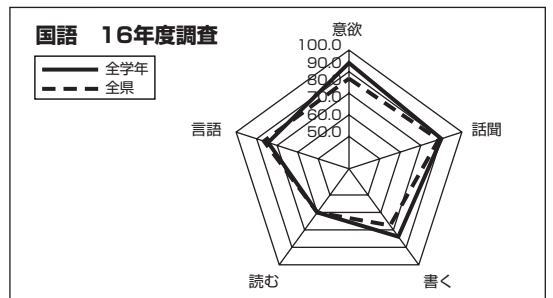
子どもたちは皆のびのびと授業を受けています。下位の「じっくりコース」の子でも差別意識を持ったりしていません。何よりコース選択の際に最も希望が多いのが「じっくりコース」でもあります。また、「じっくりコース」の子の中には、保護者に「明日の参観

竹内先生

教材ストック



1	クラス分けの方法と基準	児童の自己選択を重視し、教師はアドバイスも行う。算数の場合は前単元内容のテストを元に自己選択。国語の場合は各コースごとのガイダンスをつけた希望調査アンケートによる児童の自己選択。第一希望から第三希望まで順序をつけさせ、それにより調整。
2	教材の準備	教材は自作が多いが、自分の学校内だけでなんとかしようとはしていない。近隣の研究校から提供してもらったり、こちらからも提供したりして教材の共有化を進めている。教材を一定レベルまで高めておくことは必須。
3	指導案の作成	教師の思いと子どもの反応にズレがあった事例やワークシートなどを集めて、単元ごとにパッケージして次に生かしている。
4	評価の方法	単元終了時には一斉に同一内容のテストを行う。8割ラインをA/Bのカットラインにしている。B/Cのカットラインは6割。それに+αで習熟度別授業内の状況で意欲の評価を加味する。領域により比重は変わる。(表現領域ではテストの比重は軽い。) 評価の基準は学年担当と少人数担当の3人が共通に持っており、話し合って評価を決定する。
5	保護者への説明	学校便り、学年便りで報告すると共に学年末アンケートを行っている。何よりも子どもがのびのびと授業をがんばっている姿を見てもらいたいため、「一日フリー参観日」を設けて保護者に参加を呼びかけている。
6	子どもの満足度	「じっくり」「こつこつ」「どんどん」の3つのコースのうち、昨年のアンケート結果では、「じっくりコース」の満足度が高い一方で、「どんどんコース」の満足度が低いことが分かった。そこで、今年度は少人数担当が中心となって「どんどんコース」の教材の修正・開発や指導方法の改善に取り組んでいる。
7	LD児・ADHD児への対応	関係なく普通どおりに分けている。「学級王国」の意識を捨て、「改めて学級経営する」という意識で取り組んでいる。



今後の課題としては、テストでは測ることが難しい「考える力」が身に付いてきているのかを確かめてみたいと感じています。また、教員間での指導スキルの共有化、学校間での教材の共有化を進めていきたいです。そのあたりの風通しも良くなれば、より良い授業ができるのではないのでしょうか。

子どもたちも、以前は学級担任だけが自分の先生という意識だったので、どの先生も自分の先生という意識になり誰にでも質問するようになりました。すべての教員が意欲を高めるような言葉かけをしていることもあって、自然と学習意欲も高まってきているようです。

少人数指導・習熟度別指導によって、教員の教材開発への意識や児童への関心度が高まりました。また、教員同士の話す機会が格段に増えたので、児童指導の面で困っているようなことでも情報が共有できるようになり、明らかに風通しがよくなりました。

## 成果と課題



野村校長先生

日、いっぱい発言するから見に来てね」と言うほど、このコースの授業に積極的な子もいます。